

# 子ども音楽新聞 第15刊

2009年12月～

もりお博士の音楽講座 Vol. 3



ショパン特集  
ショパンってどんなひと？

大野和士（指揮とおはなし）  
フランス国立  
リヨン歌劇場管弦楽団

子どもたちに贈る  
スペシャル・コンサート

コンサートを終えて

Sony Music Foundation  
公演のご案内

音楽博士でプロのフルート奏者、北川森央さんにクラシック音楽の魅力をたっぷり語ってもらおう！

# もりお博士の音楽講座

Vol.3

最終回！

みなさん こんにちは！

だいぶ寒くなってきましたね。

博士はいまヨーロッパのウィーンという街に来ています。

音楽の都として有名なところですよ。

昨夜は、有名なウィーンのクリスマス市を見てきました。

11月の終わりからクリスマスまで開かれていて、

世界中からこれを見に来る人がいます。

広場に小さな小屋がたくさん出て、

クリスマスツリーの飾りや、

お菓子や、おもちゃを売っています。

来る人はみんな温かい格好をして、

屋台で売っている温かい飲み物を

飲みながら見て回るので。

夜になると照明がとんでもなくキレイで、夢の国のようでした！



ウィーンのクリスマス市 博士撮影



もりお博士

横浜生まれ。幼少時からクラシック音楽に親しんで育つ。

11歳よりフルートを始める。

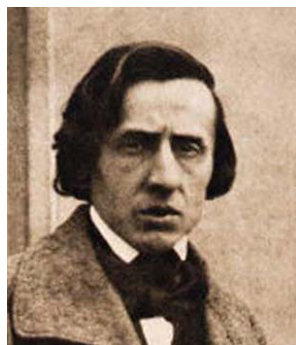
東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。

同大学院修士課程及び博士後期課程修了。

2008年3月、博士号（音楽）取得。

みんなは知っているかな？

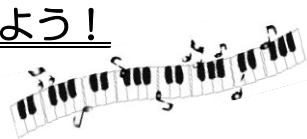
来年、2010年はショパンが生まれてから200年になるんだよ！



フレデリック・ショパン  
Frédéric Chopin

フレデリック・ショパン（1810年?-1849年）は東ヨーロッパのポーランドという国に生まれ、その後フランスのパリで活躍したピアニストであり、作曲家です。小さい頃からピアノの天才少年として有名でしたが、とってもユーモアのセンスがあり、楽しいマンガを書いて家族を楽しませたりしたんですよ。またショパンの同級生で、後に有名な役者（今ならテレビにでるような、お芝居をする人の事だよ）になったある人は「ショパンには優れた役者に必要なものが全て備わっていた」とも言っています。青年になるとふるさとのポーランドを離れ、フランスで活躍しました。同じ時代に生きた多くの作曲家が、もともとはピアニストやヴァイオリニストであっても、有名になると大きなオーケストラのための曲や、歌の入ったオペラを書こうとしたのだけれど、ピアノが大好きだったショパンは、最後までほとんどピアノの曲だけ作曲し続け、たくさん名曲を残しました。それによってショパンは「ピアノの詩人」と呼ばれています。結核という病気で、若いときに亡くなってしまいましたが、今でも彼の曲は世界中で愛されています。

## ショパンはどんな人物だったのかな？ すこーしさぐってみよう！



### ピアノ協奏曲第2番へ短調OP.21と、ショパンの初恋

ショパンが青春のまっただなかだった1830年、彼は親友への手紙にこう書いています。

「実は、ぼくは、 - 多分不幸な事に - もう自分の理想の人に会ってしまった。  
この六ヶ月の間、自分の気持ちを話さないで、心の中で忠実に仕えてきたのだ。  
彼女のことを夢見て、その思い出の中で《協奏曲》のアダージョを書いた。」

この《協奏曲》こそ、ショパンが最初に書いたピアノ協奏曲の第2番へ短調OP.21(これは楽譜が出版された順番によって第2番とされてしまいましたが、実際には第1番よりも先に作曲されました)の第2楽章のことです。ショパンのいう「理想の人」というのは、声楽科の同級生、コンスタンツィヤ・グワトコフスカという美しい女の子でした。この初恋は、結局打ち明けられることはなく終わり、やがてショパンはふるさとを離れ、コンスタンツィヤはお金持ちの貴族と結婚してしまいました。夢見るような優しい曲で、恋するショパンの気持ちが伝わってくるようです。

この曲が演奏される公演は最後のページへ！ ☺



博士撮影

### 祖国ポーランドとショパン

ショパンは青年になると、ふるさとのポーランドを離れ、外国での生活を始めることとなります。

ポーランドは周辺の大きな国に長い間いじめられ続け、国をいくつものに分けられて占領されて戦争や革命が続きました。そのため、音楽を志すショパンは、青年になるとふるさとを離れ、平和で安心して勉強できる外国で生活しなければなりません。

ずっとふるさとに帰りたい気持ちを持ち続けていたショパンでしたが、とうとう亡くなるまで帰れません。

ふるさとを愛する気持ちから、たくさんのポーランド風※の音楽を作曲しました。

※ポーランド風…マズルカやポロネーズなど、ポーランド起源のダンスや、そのための曲の形式(舞曲)を基にした音楽様式。

### 博士のオススメ！ 『ショパン弾き』



ここでは博士お勧めのショパンの弾き手(ピアニスト)を紹介しましょう。

昔からショパンを得意とするピアニストは「ショパン弾き」と呼ばれ、特別な才能を持った人とされてきました。ヨゼフ・ホフマンは大昔の人ですが、CDでその演奏を聴く事ができます。信じられないような完璧なタッチと清潔感のある音楽作りで、特にピアノ協奏曲第2番の録音は絶品とされています。

もう一人大昔の人をあげると、ウラディミール・ド・パハマンという人はブツブツと独り言をつぶやきながら演奏会を開くので有名な人でした。気持ちがノってくと演奏中にうっとりして、「美しい…」とつぶやくのです。しかし、詩的で、繊細なショパンは大変な人気がありました。《黒鍵のエチュード》をしゃべりながら録音したものが残っています。現代のピアニストでは、情熱的な閃きで演奏するマルタ・アルゲリッチや、独特のアプローチで品格ある世界を作り出すジャン＝マルク・ルイサダなどが個性的なショパン弾きとして多くのファンから人気があります。日本では横山幸雄さんのショパンが有名ですね。

現在、ショパンの全曲録音に挑んでいる、清水和音さんのコンサート情報は最後のページへ ☺

# ショパンの生涯年表

1849年	39才	最後の作品「マズルカ作品68-4」を 10月17日パリで亡くなる
1848年	38才	ロンドンに渡り、ヴィクトリア女王の前で演奏を するなどの栄誉はあったが、結核の病状が悪化し てしまう
1846年	36才	サンドと仲が悪くなり、別れる
1842年	32才	互いの芸術を尊敬し合うようになる
1839年	29才	フランスへ移動、さらに健康状態は悪化するが この時期に「バラード第2番」スケルツォ第3 番などたくさんの名作を残す
1838年	28才	静養のためにサンドとマヨルカ島へ渡るが、 今度は結核（病氣）が悪化する
1837年	27才	それ以降健康状態が悪化
1836年	26才	パリへ戻り、マリイ・タグリのサロンにて、 リストの紹介でジョルジュ・サンドと会う
1835年	25才	最後の再会 10月にライプツィヒを訪れ、メンデルスゾーンと 再会するほか、シューマン夫妻と会う
1832年	22才	パリのデビューコンサートをサル・ブレイエルで ゾノンコンサートに訪れたリストやメンデルス ゾーンから絶賛される
1831年	21才	パリからパリに向かうことになる で、ようやくパリ経由ロンドン行き のヴィザを取得し
1830年	20才	フランス・イタリア訪問のためにワルシャワを出 発したが、出発後ポーランドに革命が起こり ウィーンに滞在することとなる
1829年	19才	ワルシャワ音楽院を最高の成績で卒業 ピアノ協奏曲を発表する ピアノ協奏曲を発表する
1828年	18才	ワルシャワ音楽院に入学 出し、ここで一年上の作曲家メンデルスゾーンと 会う
1826年	16才	ワルシャワ音楽院に入学
1817年	7才	初めて作曲をし、その曲が出版される 「ポロネーズ」短調
1814年	4才	父親はヴァイオリン、母親はピアノを弾く音楽好 習い始める い始める
1810年	0才	生まれる 10月22日ワルシャワのジェラソヴァ・ヴオラで生 まれる



ロンドン

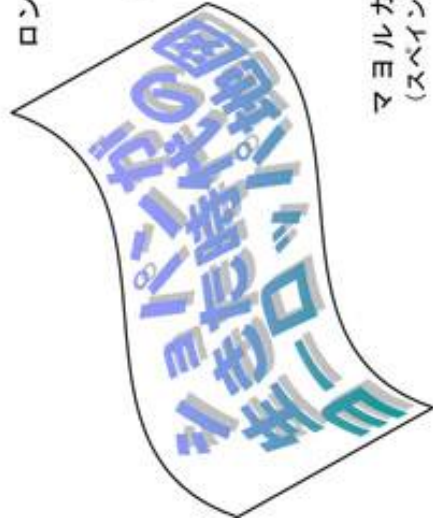
ワルシャワ

ベルリン

ライプツィヒ

カールスバート

ウィーン



マヨルカ島  
(スペイン)

# ショパンをとりまく人物相関図

じんぶつ そうかんず

ジョルジュ・サンド(1804年-1876年)  
フランスの女流作家。ショパンと9年間暮らした。サンドは男物の服を着てズボンをはき葉巻(タバコ)をすうという、当時の女性としてはかなり風変わりな人物であった。ショパンは初めて彼女を見た際「本当にあれが女か?」と言ったといわれている。『小犬のワルツ』はサンドの家の中で彼女の愛犬が走り回っている様子を描いたものといわれている。



ウジェーヌ・ドラクロワ(1798年-1863年)  
フランスの画家。ショパンはドラクロワよりも12才年下だったが、ドラクロワから積極的に手紙を送ったりしているうちに親交が深まり、大親友となった。



## ウジェーヌ・ドラクロワ作「フレデリック・ショパンの肖像」

描かれた当初この絵は「右側でピアノを弾くショパンと左側で演奏に聴き入るサンド」という構図だったが、現在は二枚に切り分けられ、ショパンの部分はルーブル美術館(フランス)、サンドの部分はコペンハーゲン・ゲンデンマークの美術館に、それぞれ別々に所蔵されている。

## プレイエル社とショパン

ショパンはプレイエル社のピアノを好み「香水のような香りがする」として絶賛した。2代目の社長カミーユ・プレイエルとは生涯友好関係が続いた。歴史的なパリデビューを飾ったのもプレイエル社のサロン「サル・プレイエル」で、その後も4回演奏会を開いた。マルカ島での滞在や、1848年のイギリス演奏旅行等で、カミーユ・プレイエルはショパンの為にピアノを送っている。ショパンは1832年に作曲した「ノクターン」(作品9)をプレイエル夫人へ献呈した。

ショパンの時代のプレイエル(国立ハバリ楽器博物館所蔵)



「献呈」とは自分の作った曲をプレゼントすることだよ!



恋人

9年間一緒に暮らすのに仲が悪くなる

友人

尊敬



親友

尊敬

尊敬?

友人



マリー・ダグー(1805年-1876年)  
作家・ジャーナリストとして活動した。1835年から1839年までフランツ・リストと一緒に暮らした。2人の間の娘のゴジマ・リストは作曲家ワーグナーの妻となった。ショパンは「12の練習曲作品25」を彼女に献呈している。



フランツ・リスト(1811年-1886年)  
ハンガリーに生まれヨーロッパ各国で活躍したピアニスト・作曲家。超絶的な技巧を持つ当時最高のピアニストで「ピアノの魔術師」と呼ばれた。また、編曲が得意な彼は自身のオーケストラ作品の多くをピアノ用に編曲している。

ショパンの「12の練習曲 作品10」だけは初見(楽譜を見てすぐ弾くこと)で弾きこなすことができず、その影響で彼はパリから突然姿を消し、数週間後に全曲を弾きこなしたショパンを驚かせたことから、ショパンが同曲を献呈したといわれている。ショパンとリストは1830年に演奏会で連弾している。



ロベルト・シューマン(1810年-1856年)  
ドイツの作曲家、音楽評論家。妻は名ピアニスト、クララ・シューマン。シューマンは彼が編集する「音楽新報」で、ショパンの作品を高く評価し、「諸君、帽子を脱ぎたまえ!天才だ」と絶賛した。また、自身が作曲した「謝肉祭」にショパンを登場させるほか、後に「クライスレリアーナ」を彼に献呈している。ショパンもシューマンに「バラード2番」を献呈した。



フェリックス・メンデルズゾーン(1809年-1847年)  
ドイツロマン派の作曲家、指揮者。38才という短い生涯だったが、多くの作品を残した。1843年(34才)には、自ら資金を集めライプツィヒ音楽院を開校し、ロベルト・シューマンと共に作曲とピアノを教えた。

子どもたちに贈るスペシャル・コンサート・シリーズ  
大野和士（指揮とおはなし）フランス国立リヨン歌劇場管弦楽団

2009年11月2日（月）午後7時開演 Bunkamura オーチャードホール



博士もみんなと  
一緒にききました☆

先日、オーチャードホールでみなさんと一緒に見た、「こども  
たちに贈るスペシャル・コンサート」大野和士 指揮／フランス  
国立リヨン歌劇場管弦楽団は、素晴らしかったですね！演奏は  
素敵でしたし、大野さんのお話もとってもわかりやすく楽しか  
ったですね。またみんなで、手の振り付けをした《火の鳥》は新  
しい音楽の楽しみ方でしたね。博士も夢中になってみんなと一緒に  
手の動きで《火の鳥》を表現しました。キレイでしたね！  
あの場にいれたみなさんは本当にラッキーだったと思いま  
す。あのあとで、リヨンのフルート奏者のジュリアンさんとたま  
たまお会いしました。「あのコンサートを聴いていたんですよ！」  
と伝えると、「舞台から見て、子ども達の手の動きが本当にキレイ  
だった！」と、とても喜んでいましたよ。



そんな、演奏家も博士も楽しめたコンサート、みんなは楽しかった？  
アンケートに答えてくれた、おともだちの感想をしょうかいします。



いっしょにできて楽しかった。  
おどりが楽しかったです。  
かいせつがあってよかったです。  
大好きです！


カステイの所の音が大きくて  
わるい感じがしてた。

オーケストラのみなさんの  
えんそうでいろんなイメー  
ジを考えながらやっている  
のがよかったです。

オーケストラの火の鳥はとて  
もところにひびきました。  
わたしも大きくなったらオーケ  
ストラをひいてみたいです。

しき者がはねていたいして  
見ておもしろかった。

次回（来年）のコンサートも、ぜひ楽しみにしていてくださいね！

コンサート写真館  撮影：北山宏一



フレイベントで、小学校4年生のみんなが「**牧神の午後への前奏曲**」と「**火の鳥**」をイメージして描いてくれました。



ヒップホップダンサーの**フレイム・ザイバット**さんが「**牧神の午後への前奏曲**」で踊ってくれました。



コンドルスのみなさんと「**火の鳥**」で一緒に踊りました。



おとうさんもおかあさんも一緒になって、みんな**大盛り上がり**☆



素晴らしい演奏を聴かせてくれた、**大野和士**さんと**フランス国立リヨン歌劇場管弦楽団**



みんな、来てくれてありがとう♪

このコンサートの一部は、**12月26日(土) 15:00~ NHK教育**で放映されるよ！

「**全身音楽体験 ~大野和士と子どもたち**」 ころれなかったおともだちもぜひみてね！！

# Sony Music Foundation 公演のご案内

「ショパン・イヤー幕開けを飾るニューイヤー・コンサート」

MIKIMOTO 日本赤十字社 第41回献血チャリティー・コンサート

## New Year Concert 2010

一晚に3曲も協奏曲が聞けるコンサート

こんな豪華なコンサートはめったにありません！

今後の活躍が期待される若手ソリスト2人と

近年ますますそのダイナミックな音楽が話題のヴィルトゥオーゾ清水和音による

名曲コンサートの決定版！！

2010年1月12日（火）午後7時開演

サントリーホール（東京・赤坂）

### ■曲目

ショパン：ピアノ協奏曲第1番（ピアノ：魚谷絵奈）

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲

（ヴァイオリン：加藤えりな）

ショパン：ピアノ協奏曲第2番（ピアノ：清水和音）

指揮：小松長生 管弦楽：東京都交響楽団

### ■料金（全席指定、税込）

S席：6,000円 A席：5,000円

B席：4,000円 P席：2,000円

### ■プレイガイド

都響ガイド：03-3822-0727

Sony Music Foundation：03-3261-9933

（月～金：10:00～18:00）

サントリーホールチケットセンター：03-3584-9999

ぴあ：0570-02-9999（Pコード：333-624）<http://t.pia.jp/>

イープラス <http://eplus.jp/>

※未就学のお子様のご入場はお断りさせていただきます。



かとう えりな  
加藤えりな



うりゅう えな  
魚谷絵奈



しみず かずお  
清水和音



こまつちやうせい  
小松長生



©竹原伸治

とうきょうとらうきやうがくだん  
東京都交響楽団

発行：財団法人ソニー音楽芸術振興会(Sony Music Foundation)

〒102-0076 東京都千代田区五番町5-1 JS市ヶ谷ビル7F

TEL:03-3261-9933 FAX:03-3261-9898 Email: smf@sonymusic.co.jp URL: www.smf.or.jp

発行人：岡 路子／編集：川崎 映子・千田 真実・中澤 瑞穂・北川 森央

\* 当財団では、個人情報保護法に基づき、個人情報について厳重な管理をしております。今後、子ども音楽新聞のご案内が不要な方は、当財団までお電話にてご連絡下さい。電話：03-3261-9933